令和３年１月２２日

令和２年度　流山市立西初石中学校学校評価　自己評価

青字：成果　赤字：課題

【学校教育目標・目指す生徒像について】

＊学校教育目標「自立　貢献」

＊目指す生徒像

・自分の行いに責任を持ち、確かな知識や技能のもと、自分で判断し行動できる生徒

・自分以外の人や社会に自分の力を役立てることができる生徒

概ね学校教育目標は達成できている。社会の中で埋没することなく、一人の人として自立を目指すために「自分の考えを表現（書く・話す）」することができるようになってきた。

また、貢献隊をはじめとする「主体的な行動」や「自分の力を役立てる」ことができるようになってきている。

しかし、他者の意見を聞きあったり、そこから新たな考えを生み出したりするような**深まりや、内面の交流や深まりは今後の課題**である。

【指導上の課題】

「過程（教職員の指導）と、その成果（生徒の様子）」にギャップがあることの要因の検討及び、それを踏まえた今後の指導について

様々な調査や見取りから、**過程（教職員の指導）と成果（生徒の様子）にギャップがあることが、指導上の大きな課題として浮き上がった。**

（１）要因の検討

・指導の成果をあげるには、長期的な指導（時間がかかる）が必要なことある。よって、まだ最終的な地点に到達しないこともあり、結果、ギャップが生まれることもあるのではないか。「評価の基準」の問題があるかもしれない。

・目標を達成するために、様々な工夫をしながら授業を進めている。けれどもそれが「適切な方法」なのか、わからないことも多く、試行錯誤している。

・教員と生徒の間で「理念」や「目標」にずれがあるのではないか。

・地域人材（地域の方々や保護者）を取り入れた授業や諸活動を行ったが、地域の方々と教員との間に「目標」や「方向性」にずれがあるように感じることがある。地域や保護者の後ろには生徒がいるわけであり、そこでギャップ

が生まれていることも考えられる。

・教員と生徒とのコミュニケーションが不足しているのではないか。教師、生徒それぞれの願いや思いの「相互理解」することが足りていないように思う。

・アンケートの設問の検討が必要ではないか。具体的な目標や評価基準を教員、生徒が持てていないのではないか。また、教員と生徒の間でも共有（共通認識）できていない、わかっていないのではないか。

＊目標の具体化

＊教師間、教師と生徒や保護者の間での共有

＊指導方法（目標達成を目指した計画的取組）

＊評価（規準や基準）

（２）今後の具体的な指導

・「次年度は、諸アンケートの設問を学校運営部で検討し、作成する」

「目標」→「指導」→「評価」をそれぞれ明確にし、それを職員も生徒も具体的に理解した中で教育活動を展開する。様々な教育活動は、ＰＤＣＡサイクルのもとで展開する。

【重点目標について】

１　授業改善

２　地域学校協働本部・異校種等との連携

３　学校組織による取組の徹底と広報

＊本校の生徒の課題

「探究力」

主体的な姿勢　他者や社会などへかかわる姿勢　課題を見出し、考え、判断し、解決する力

「情報活用能力」

課題解決のために、知識や情報を活用し、論理的に考える力

「本音を語れる人間関係づくり」

思いを伝え合い、聴きあい、認めあえる安心感のある人間関係

１　授業改善

□授業改善に向けて、特に評価の面からのアプローチができた。

→　新学習指導要領完全実施を控え、学校運営部（教務・研究主任）を中心に指導計画づくりを通し、教員の学びを深めたい。

□SDGs への取組は大きな成果があった。

→　次年度の指導計画作成をとおして、「西初中の SDGs」を作成していく。

□自分の考えを文字や言葉にする力は伸びてきている。

□「考え、判断する力」や「考えを深める力」を育てることが課題である。

2　地域学校協働本部・異校種等との連携

□地域連携が更に進んだ。

→　学習会講師や、教育ミニ集会での小中高及び地域自治会等と連携し、地域スローガンを決定するなど成果があった。今後は、教科や分掌等の違いで取り組み易さに違いがあるとは思うが、更に広げ深めたい。

□かかわり合いプロジェクトを中心に、更に多くの連携を進めたい。

3　学校組織による取組の徹底と広報

□組織的取組が充実した。

→　学校運営部・主任会・生徒支援委員会・いじめ調査委員会・プロジェクトチーム・フレッシュ研修等、リーダーを中心に機能した。学校運営に主体的にかかわる職員が増えた。今後、さらに学校運営部を軸に（次年度の教育課程検討を中心に）職員の主体性の伸長を目指したい。

□情報発信の改善が進んだ。

→　ＨＰや地域活動の広報（地域ボランティアによるチラシ作成）を進めた。

【育てる資質・能力について】	＊本校生徒の課題
＊・探究力 ・コラボレーション力 ・共生力 ・自律力 ＊・情報活用能力 ・創造力	

□「探究力」の育成に前進が見られた。

→　授業の中でグループワーク、SDGs への探求的取組が功を奏している。生徒は、考えたり、調べたりするように変わってきているが、**課題を見つけたり、自ら学んだり、いわゆる「深める」ことについては、今後の課題である。**また、**この課題を解決するための授業づくり、指導計画づくり、職員の学び（意識改革）が必要である。**

□「情報活用能力」の育成へ、目に見える取組が見られた。

→　フレッシュ研修主催の自主研修や、学活での新聞学習等の取組が行われた。**今後、教科指導や総合的な学習の時間等の指導をとおして、計**

画的な指導を行う体制づくりに取り組みたい。

【プロジェクトについて】
〇深い学びづくりＰ（総合的な学習の時間を軸とした探究的カリキュラムづくり）
〇語り合いＰ　　（本音を語れる人間関係づくり）
〇かかわりＰ　　（様々な人や関係機関との連携）

□プロジュエクトリーダーを中心に主体的な取組が行われ、成果を上げている。
→　プロジェクリーダーは学校運営部のメンバーでもあり、学校全体の経営や運営の視点から主体的なリーダー間の連携を図っていきたい。ワンステップ上の人材育成を目指したい。学校運営部のリーダーシップに期待したい。

〇深い学びＰ
□ＳＤＧｓへの取組がスタートし潮祭での発表を行うことができたり、ミニ集会後の活動が生まれたりした。
□年間計画を試行錯誤し、作成している。（西中のＳＤＧｓ）
→　３学期に次年度（令和３年度）の指導計画を作成する。

〇語り合いＰ
□ＳＳＴやＳＧＥを全校で計画的に行うことができた。
→　３学期に次年度（令和３年度）の指導計画を作成する。
□１、２年次の発達段階をとらえた計画的な学級経営や学年経営を行う。
→　ＱＵ検査の結果から、３年生は学級満足度がよくなっているが、１、２年生は、学級満足度が下がっている傾向にある。

〇かかわりあいＰ
□貢献隊の活動がコロナ禍であっても、生徒発信で主体的な活動ができている。
□教育ミニ集会で決定した地域スローガンの具現化を図り、本年度を終え、次度へつなげることが課題である。

【短期目標（令和２年度末に実現すること）について】

新学習指導要領に対応した教育課程をつくる。

順調に計画的に進めている。本校の課題は「探究力」「情報活用能力」「本音を語れる人間関係づくり」の３点である。詳細は、今まで述べてきたところである。この課題を解決していくために、新学習指導要領の目指すところを加味しながら、現在、次年度のカリキュラム（教育課程）の編制を進めている。３月末には次年度に完了する見込みである。肝は、３つの課題や、その課題解決に向けての取組みである「ＳＤＧｓ」や「地域連携」を如何にカリキュラム（教育課程）に落と

し込むかということである。なお、一部実施できるところについては、本年度３学期から実施している。

総合的な学習の時間を核にしたＳＤＧｓに取り組み、教科横断的なカリキュラムが組まれる。

「深い学びＰ」を中心に、ＳＤＧｓの取組みを進めることができた。各教科の年間指導計画にＳＤＧｓの取組を示したり、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成したりした。現在、学校運営部を中心に次年度の教育課程の編制を進めているが、自己評価をもとに、よりよいカリキュラム（教育課程）の編制を目指している。

地域貢献活動や外部人材を活用した教育活動が定着し、学校を核とした地域づくりの考えが広まる。

コロナ禍であり、本年度実施できなかったことがあるが、感染症対策を十分に行いながら、「ねらいを達成するためにはどうすればよいか」という姿勢で工夫しながら学校を核として地域づくりを進めた。学校ボランティアを活用した教育活動（地域学校協働活動）は完全に定着し、効果をあげている。また、ミニ集会を機に地域の方々にも主体的なかかわりが生まれてきていることも大きな成果である。現在、地域関係者をつなぐ「地域連絡会」の立ち上げを進めているところである。

生徒は、自分の思いを言葉にし、語り合うことができる。

自分の考えを、文字や言葉にすることができてきている。各教科の授業実践や、ＳＤＧｓの取組等において「考えを表現する」活動の成果があがっている。また、語り合いＰが推進したＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）やＳＧＥ（構成的グループエンカウンター）の計画的な取組も功を奏している。今後は、「自分の思いを表現する」、級友と「思いを語り合う」ような内面の表出や心の交流を進めることで、新たな考えに気づいたり、課題を見つけたり、解決する方法を見出すような深い学びを目指せる個や集団へと成長させることを目標としたい。

【中期目標（令和４年度末に実現すること）について】

Ｒ５年度のコミュニティースクールの開始に向け、学校運営協議会の設置準備が完了し、

本校のミッションのもと、目指す生徒像を保護者、地域（機関・住民）と共有し、学校と地域機関、地域人材が共に生徒の育成にかかわる教育課程の運用の準備が完成している。

令和５年度からのコミュニティースクールへの準備は順調に進んでいる。

平成３０年度まで設置されていた年２回実施されていた「地域教育会議」を発展的に解消し、令和元年度に「学校関係者評価委員会」を立ち上げ年３回実施し、年１

回の「教育ミニ集会」を実施するようにした。また、本校と西初石小学校、県立流山おおたかの森高等学校の３校による「地域連携会議」を設置し、「西初石地区地域連携の指針」を定め、学校を含めた地域連携の推進体制を構築した。「教育ミニ集会」の会場は隔年で、西初石小学校と本校で実施するが、この「教育ミニ集会」を地域連携推進本部と位置付けた。このことは、地区社協や地区民生児童委員協議会等で報告をした。現在、地域づくりに取り組んでいる様々な団体等とさらに連携を深めるために「地域連絡会」設置に向けて調整を行っている。令和５年度からの学校運営協議会は、「学校関係者評価委員会」を母体として立ち上げる方向で考えているが、「地域連絡会」との関係の中で調整が必要である。学校運営協議会と両輪を為す「地域学校協働本部」もコーディネーターを中心に、充実した活動を行っており、地域連携は充実している。

すべての生徒が主体的に学習に取り組み、考えや思いを仲間と語り合い、新たな課題を見出し、解決しようとする生徒が育つ学校になる。

①確かな知識や技能をもとに　②自分で判断し　③行動できる　というように「主体的な学び」を定義するならば、①の段階である。本校生徒課題は、前述したが「探究力」「情報活用能力」「本音を語れる人間関係づくり」である。すでに述べたところであるが、ようやく「自分の考えを表現できる」という点が伸びてきたところである。それをさらに深めたり、他の考えを聞き入れながら判断したり、行動していくことについては、これからの課題である。学校教育目標「自立 貢献」及び「目指す生徒像」に迫っていきながら、次年度の課題としたい。

【総括】

学校教育目標「自立 貢献」及び「目指す生徒像」を実現するための教育実践で成果を上げたものとして、授業改善・SDGs への取組・プロジェクトリーダーを中心とした主体的・組織的な取組が挙げられる。

その成果として、「自分の考えを表現（書く・話す）」することができるようになってきたり、貢献隊をはじめとする「主体的な行動」や「自分の力を役立てる」ことができるようになってきたりしている。また、SDGs への取組がスタートし、潮祭での発表を行うことができ、ミニ集会後の活動が生まれ、地域連携が更に進んだ。さらに、次年度の新学習指導要領完全実施に向けて、西中の SDGs を組み込んだ年間指導計画を作成している。

本校生徒課題は、「探究力」「情報活用能力」「本音を語れる人間関係づくり」である。つまり、「自分の考えを表現できる」段階から、それをさらに深めたり、他の考えを聞き入れながら判断したり、行動していくことである。

この課題を解決するための授業づくり、指導計画づくり、職員の学び（意識改革）

が必要である。今後、教科指導や総合的な学習の時間等の指導をとおして、計画的な指導を行う体制づくりに取り組むことや、発達段階をとらえた計画的な学級経営や学年経営を行うことが必要である。

そして、教育ミニ集会で決定した地域スローガンの具現化を図り、プロジェクトリーダーを中心に更に多くの連携を進めることが、令和５年度のコミュニティースクールの開始につながると考える。学校運営協議会の設置準備が完了し、本校のミッションのもと、目指す生徒像を保護者、地域（機関・住民）と共有し、学校と地域機関、地域人材が共に生徒の育成にかかわる教育課程の運用の準備およびコミュニティースクールへの準備は順調に進んでいる。